

主日の福音 2024/3/29(No.1288)

聖金曜日 (ヨハネ 18:1-19:42)

父がすべてを御自分の手にゆだねられた (3)



「だれを捜しているのか」(18・4) イエスがご自身をなげうって救いを成し遂げられるいよいよの場面で、最初に語られたのがこの言葉です。一隊の兵士と、祭司長やファリサイ派が遣わした下役たち、そしてイスカリオテのユダもそこにいました。

彼らは「ナザレのイエスだ」(18・5)と答えます。彼らは、だれを捜しているのか、本当に分かっていたのでしょうか。「どこのだれか」は分かっていたでしょう。ただ、イエスの呼びかけにちゃんと答えてはいないのです。

イエスは「救い主」なのですから、「救い主を捜している」と言うべきでしょう。「だれを捜しているのか」と問われて「救い主を捜している」とちゃんと答えるのであれば、そもそもイエスに手を掛けたりはしないでしょう。

ではここに集まった皆さんはどのように答えるのでしょうか。「だれを捜しているのか」昨晚のミサで考えたように、イエスは御父から御自分の手にすべてを委ねられた救い主です。「御父からすべてを委ねられたあなたを捜しています。それなのに、あなたが十字架にはりつけになる罪を担わせたのは私です。」そうとしか答えることができません。

人を憎んだり、悪く思ったり、腹を立てたり、嘘を言ったりごまかしたりした。それらを担って、イエスは十字架にはりつけになりました。そうでありながら私たちはどこまで十字架のイエスに近づくことができるのでしょうか。イエスはその答えを示してくださいました。

「兵士の一人が槍でイエスのわき腹を刺した。すると、すぐ血と水とが流れ出した。」(19・34) イエスは私たちすべてのために、裂け目を用意してくださいました。裂けたところから、私たちはイエスの最も奥深くに導かれます。イエスの御心は、私たちのために開かれています。胸に手を当てても、イエスのみ心に触れる資格はありませんが、イエス自らが、「わたしはあなたを救うためにこの傷を受けた。わたしに近づきなさい」と言ってくださいます。

最後の晩餐で、御自分を聖体として与えてくださるイエスは、十字架上では流されたその血の一滴までも与えてくださいました。与え尽くしたのは、御自分を無にして私たちが留まる場所を用意するためかもしれません。

私たちはこれから、イエスの復活のその時を待ちます。私たちにすべてを与え尽くし、私たちのすべてを受け取った方は、栄光をお受けになります。イエスは「受け取ってください」と言えるものを持たない私を受け取って、救ってくださいました。ただひたすら感謝して、今日の典礼を進めていくことにしましょう。

復活徹夜祭(マルコ 16:1-7)